関西自然保護機構会誌 23（2）：183－188, 2001

原 著

世界遺産・春日山原始林のシダ植物

辻 本 善 次

Pteridophyta in Kasugayama forest, the World Heritage. Zenji Tsujimoto

はじめに

19世紀以降，春日山[1]の植物相を植物分類学的見地から，最初に調査し記録したのは，1883年松村任三・大久保三郎らによる，「和紀勢三州植物採集報告」（1883）である。それ以降この山に関する多くの論文や報告が出されたが，それらの証拠となる標本はあまり多く残されていない。その理由としては，①春日山は古来春日大社の神域として伐採を禁じ，保護されてきた。②1924年国の天然記念物，1956年特別天然記念物の指定を受け，さらに1998年には世界遺産に登録されるなどにより，ほぼ全面的に採集が禁止されてきた，などによるものである。シダ植物も例外ではないが，日本シダの会が発刊した「日本のシダ植物図鑑・1－8」，に記載された種・変種・雑種については，その証拠標本が国立科学博物館に保存されている。また，大阪市立自然史博物館・京都大学理学部植物学教室・奈良教育大学生物学教室・奈良女子大学理学部植物学教室などにも，相当数の標本が保存されていて，これらの中には絶滅または絶滅危惧種もふくまれている。

春日山産シダ植物の総数はおよそ160種で，奈良県産シダ植物総数の過半数に達する。このように春日山のシダ植物は奈良県はもちろん，近畿地方でも極めて特異な分布状態を示している。しかし，春日山の自然環境は1980年頃より急速に悪化し，草本植物において特にその傾向が顕著である。シダ植物でも県内での稀少種はもちろん普通種さえも多数が絶滅または絶滅危惧の状態に置かれている。以下に主として分布上重要な種・変種・雑種について，その現状を記す。

本調査報告の作成にあたり，ご教示をいただいた瀬戸剛先生，ならびに貴重な資料をご提供下さった川端一弘氏に感謝致します。

春日山で絶滅または絶滅の可能性が高い種

ここでいう絶滅とは，各種研究機関に標本が保管され，または正規の文献に記載されているが，1970年以降その生存が確認できない種・変種および雑種で，和名の後に（Ⅰ）を付した。絶滅の可能性が高い種とは，1995年以降，それ以前の自生個所で確認できず，新たな自生個所も確認できない種・変種および雑種で，和名の後に（Ⅱ）を付した。

マツバラン科 *PSILOTACEAE*

マツバラン（Ⅱ）*Psilotum nudum* (*L.*) *Beauv.*[2] 1989.6.7.[3] 奈良市高畑町。大和植物志（岡本勇治・1937），に，本種の産地として唯一春日山をあげているが，末尾に（絶滅？）と付記している。この記録のみでは，岡本自身が春日山で本種を確認したという証拠はない。しかし本種は1930年代，既に春日山で絶滅状態にあったことが分かる。

1989年6月，春日山の麓に近い奈良市高畑町

で本種が数個体自生していることが確認された。自生個所は南に面した，乾燥した舗装道路の側溝で，本種が自生するには相当過酷な条件であった。しかし，これは本種が環境への適応性が予想以上に大きいことを示すものである。

ヒカゲノカズラ科　*LYCOPODIACEAE*

マンネンスギ（Ⅰ）*Lycopodium obscurum L.* 大和植物志記載。分布上疑義がある。

カタヒバ（Ⅱ）*Selaginella involvens* (*Sw*) *Spring.* 1972.2.13. 柳生街道。

ミズニラ科　*ISOETACEAE*

ミズニラ（Ⅱ）*Isoetes japonica A.Br.* 1980.11.26. 南部看守交番（大杉跡）付近湿地。

ハナヤスリ科　*OPHIOGLOSSACEAE*

ヒロハハナヤスリ（Ⅰ）*Ophioglossum vulgatum L.* 1925.6.27. 採集者不詳。奈良女子大学所蔵。

ゼンマイ科　OSMUNDACEAE

ヤマドリゼンマイ（Ⅱ）*Osmunda cinnamomea L.* 1972.8.31. 滝坂滝坂妙見宮下谷。

コケシノブ科　*HYMENOPHYLLACEAE*

キヨスミコケシノブ（Ⅰ）*Hymenophyllum oligosorum Makino* 大和植物志・近畿地方羊歯植物目録記載。

コケシノブ（Ⅱ）*Hymenophyllum wrightii van den Bosch.* 大物志記載。分布上疑義がある。ヒメコケシノブの可能性もあり。

シノブ科　*DAVALLIACEAE*

シノブ（Ⅰ）*Davallia mariesii Moore ex Baker.* 大和植物志記載。

ホウライシダ科　*PARKERIACEAE*

ハコネシダ（Ⅰ）*Adiantum monochlamys Eaton* 大和植物志記載。

クジャクシダ（Ⅰ）*Adiantum pedatum L.* 1925.6.27. 採集者不詳。奈良女子大学所蔵。

シシラン科　*VITTARIACEAE*

シシラン（Ⅰ）*Vittaria flexuosa Fée.* 大和植物志記載。

チャセンシダ科　*ASPLENIACEAE*

イワトラノオ（Ⅰ）*Asplenium tenuicaule Hayata.* 1925.6.27. 採集者不詳。奈良女子大学所蔵。

ヌリトラノオ（Ⅰ）*Asplenium normale D. Don* 近畿地方羊歯植物目録記載。

オシダ科　*DRYOPTERIDACEAE*

ミヤコヤブソテツ（Ⅱ）*Cyrtomium fortunei var. intermedium Tagawa.* 1872.5.28. 柳生街道。

オオキヨズミシダ（Ⅱ）*Polystichum tsus-simense var. mayebarae* (*Tagawa*) *Kurata* 1972.10.21. 柳生街道朝日観音付近。

サイゴクイノデ（Ⅱ）*Polystichum pseudo-makinoi Tagawa.* 1973.8.1. 柳生街道入り口。

ツヤナシイノデ（Ⅱ）*Polystichum ovato-paleaceum* (*Kodama*) *Kurata.* 1971.11.11. 柳生街道朝日観音付近。

カタイノデ（Ⅱ）*Polystichum makinoi*

---

1) 春日山の範囲としては，特別天然記念物春日山原始林指定区域の他に，花山・芳山（ほうやま）・御蓋山（みかさやま）・若草山および，山麓の春日大社・東大寺の境内地をふくめた．

2) 学名は原則として「日本の野生植物・シダ」岩槻邦男編（1992），に拠った

3) 日付は各種研究機関に保存されている標本については，それらに記載された採集年月日，それ以外は，筆者が各種研究機関に収納した，標本の採集年月日である．

(*Tagawa*) *Tagawa.* 1971.11.11. 柳生街道

カタイノデモドキ(Ⅱ) *Polystichum* × *izuense Kurat.* 1971.10.21. 柳生街道。

アイカタイノデ(Ⅱ) *Polystichum* × *iidanum Kurata.* 1972.8.31. 柳生街道。

ハコネイノデ(Ⅱ) *Polystichum* × *hakonense Kurata.* 1972.5.28. 柳生街道。

アマギイノデ(Ⅱ) *Polystichum* × *mashikoi Kurata.* 1972.5.28. 春日山周遊道路地獄谷付近。

ツヤナシイノデモドキ(Ⅱ) *Polystichum* × *pseudo-oovato-paleaceum Akazawa.* 1971.11.11. 柳生街道。

ドウリョウイノデ(Ⅱ) *Polystichum* × *anceps Kurata.* 1971.11.11. 柳生街道。

ツヤナシフナコシイノデ(Ⅱ) *Polystichum* × *pseud－inadae Serizawa.* 1971.8.31. 柳生街道。

タカオイノデ(Ⅱ) *Polystichum* × *takaosanense Kurata.* 1971.11.11. 柳生街道。

ホソバハカタシダ(Ⅱ) *Arachniodes* × *respiciens Kurat* 1971.11.11. 柳生街道。

シモダカナワラビ(Ⅱ) *Arachniodes* × *sasamotoi Kurata* 1975.10.28. 柳生街道。

カワズカナワラビ(Ⅱ) *Arachniodes* × *kenzo-satakei* (*Kurata*) *Kurata.* 1979.6.8. 柳生街道。県内では春日山以外未記録。

タニヘゴ(Ⅱ) *Dryopteris tokyouensis* (*Matsum ex Makino*) *C. Chr.*

1984.8.12.若草山～鶯の滝間の湿地。1883年，松村任三が春日山で採集，翌1898年牧野富太郎が植物学雑誌12：87。に和文で記載。1899年同誌13：81に英文で正式記載した。この原記載には下記の4点の標本が引用されている。

大和国（奈良県）春日山（松村任三。1883.7.15.）

武蔵国（東京都）道潅山（松村任三。1884.12.）

土佐国（高知県（牧野富太郎。1889.8.6.）

三河国（愛知県）東加茂郡綾瀬（名倉。1895.6.22.）

タイプの指定がないのでこの4点がSyntypeである。したがって，春日山はtype－localityということになる。春日山はタニヘゴが日本で最初に種として認識された地であるが，学名の種形容詞は現在の東京都道潅山に由来している。和名は松村任三の命名で，当時知られていた同属のイワヘゴに対して，本種が湿地に生えることからタニヘゴと名付けられたのだろう。当時タニヘゴは日本でこの四箇所しか知られておらず，原記載にも稀な種と書かれている。

春日山のタニヘゴはその後，1919年上野益三，1957年児玉務が，それぞれ大阪市立自然史博物館に標本を残している。児玉の標本には採集地が若草山・鶯の滝間と記されていて，筆者が確認した個所と同一と思われる。しかし，上野の標本には詳細な記載がない。春日山のタニヘゴは，複数の箇所に自生していた可能性も否定できない。1984年8月12日，筆者は若草山と鶯の滝間の湿地で，鹿に葉身の上半分を食いちぎられた，推定全長約1.2mの1個体と，周辺に全長約50～60cmの幼株3個体を確認した。しかし，翌1985年夏，それらはすべて無くなっていた。その後，新たな自生箇所を発見することもできない。極めて遺憾なことであるが，学術的にも重要な春日山のタニヘゴは，既に絶滅したものと思われる。

タニヘゴは温帯性のシダで，シダ植物の分布調査が進んだ現在では，本州東北部を中心に，北海道から九州まで広く布することが知られている。奈良県では現在，春日山の他に奈良市大柳生町，山辺郡都祁村小倉，宇陀郡大宇陀町関戸，御所市重坂などで確認されているが，いずれも絶滅または絶滅危惧状態である。

オオクジャクシダ(Ⅱ) *Dryopteris dickinsii* (*Fr. et Sav.*) *C.Chr.* 1972.4.9. 柳生街道。

ナチクジャク（Ⅱ）*Dryopteris decipiens* (*Hook.*) *O.Ktze.* 1972.4.8. 柳生街道。

ミヤマイタチシダ（Ⅱ）*Dryopteris sabaei* (*Fr. et Sav.*) *C.Chr* 1975.7.24. 滝坂妙見宮下谷。

イワデンダ科　*WOODSIACEAE*

ウスヒメワラビ（Ⅱ）*Acystopteris japonica* (*Luerss.*) *Nakai* 1975.7.24. 地獄谷付近。

ウラボシノコギリシダ（Ⅱ）*Athyrium sheareri* (*Bak.*) *Ching* 1971.8.28. 滝坂妙見宮下谷。

ヤマホソバイヌワラビ（Ⅱ）*Athyrium* × *pseudo-spinescens Serizawa* 1982.7.3. 柳生街道。

ナンキイヌワラビ（Ⅰ）*Athyrium* × *minakuchii Kurata 1951.* 田川基二採集。牧野標本館所蔵。

イヨクジャク（Ⅱ）*Diplazium okudairae Makino.* 1973.11.18.

滝坂妙見宮下谷。春日山でイヨクジャクが最初に記録された年月日は定かではない。大和植物志には記載がなく，「しだとこけ」5：34（田川基ニ・1954）には，アカメクジャクについての記載文中に，春日山のイヨクジャクについて触れられている。1973年，筆者は滝坂妙見宮下谷で1群落，翌1974年，その付近でさらに2群落を確認した。しかし，1992年までにこれらの群落はすべて絶滅した。

ハコネシケチシダ（Ⅱ）*Corornopteris christenseniana* (*Koidz.*) *Tagawa* 1978.6.4.柳生街道。滝坂妙見宮付近。

ウラボシ科　*POLYPODIACEAE*

サジラン（Ⅰ）*Loxogramme duclouxii Christ* 大和植物志記載

イワヤナギシダ（Ⅱ）*Loxogramme salicifolia* (*Makino*) *Makino* 1975.7.24. 首切り地蔵付近の倒木に着生，倒木が撤去され絶滅。

ヒメサジラン（Ⅰ）*Loxogramme grammitoides* (*Bak.*) *C.Chr.* 1979.11.11. 大和植物志記載。

春日山で絶滅が危惧される種

絶滅危惧種とは，春日山で個体数の減少が著しく，絶滅のおそれがあると判断される種•変種および雑種である。その状態を示すために，和名の後に「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物・植物Ⅰ（維管束植物）」に用いられた，絶滅危惧種のカテゴリーを表す記号を付記した。

イノモトソウ科　*PTERIDACEAE*

マツザカシダ（EN）*Pteris nipponica Shieh* 1972.10.2. 滝坂妙見宮付近。

チャセンシダ科　*ASPLENIACEAE*

オクタマシダ（CR）*Asplenium pseudo-wilfordii Tagawa.* 1998.8.30. 藤井俊夫。滝坂妙見宮付近。山林の乾燥化にともない絶滅が危惧される。

オシダ　*DRYOPTERIDACEAE*

ナガバヤブソテツ（EN）*Cyrtomium devexiscapulae* (*Koidz.*) *Ching.* 1972.4.30. 春日大社境内。周遊道路北側。個体数減少。

アイアスカイノデ（EN）*Polystichum longifrons Kurata.* 1973.5.28. 柳生街道。激減。

ハタジュクイノデ（CR）*Polystichum* × *hatajukuense Kurata.* 1971.11.11. 柳生街道。滝坂妙見宮下谷。1998年。1個体のみ。

ヒメカナワラビ（CR）*Polystichum tsussimense* (*Hook*) *J.Sm.* 1980.10.26. 柳生街道朝日観音付近。

コバノカナワラビ（EN）*Arachniodes sporadosora* (*Kunze*) *Nakaike.* 1972.2.13. 滝坂

妙見宮下谷。近年激減。

ホソバカナワラビ（EN）*Arachniodes aristata*（*Forst.*）*Tinbale*. 1972.6.19. 柳生街道。春日山周遊道地獄谷付近。

ミヤコカナワラビ（EN）*Arachniodes* × *mitsutae Shimura nom.nud*. 973.11.18. 柳生街道入り口付近に群落を形成。近年激減。国内でも稀産種。ホソバカナワラビに似るが，葉質はやや薄く包膜の辺縁に突起が多い。

ナガバノイタチシダ（EN）*Dryopteris sparsa*（*Hamilt. ex D.Don*）*O.Ktze*. 1973.8. 滝坂妙見宮下谷。

キヨスミヒメワラビ（EN）*Ctenitis maximowicziana*（*Miq.*）*Ching*. 1971.1.8. 滝坂妙見宮下谷。

イワデンダ科　*WOODSIACEAE*

タニイヌワラビ（CR）*Athyrium otophorum*（*Miq.*）*Koidz*. 1971.8.28. 柳生街道で絶滅。滝坂妙見宮付近に残存。

サキモリイヌワラビ（CR）*Athyrium oblitescens Kurata*. 1980.10.4. 滝坂妙見宮下谷。奈良県ではごく稀。主として日本海側に分布する。県内では稀産種。滝坂妙見宮下谷に小群落を形成。1998年以降絶滅に瀕している。

ヘビノネゴザ（EN）*Athyrium yokoscense*（*Fr. et Sav.*）*Ching*. 1980.7.6. 誓多林付近。

トガリバイヌワラビ（EN）*Athyrium iseanum var. angustisectum Tagawa*. 1983.10.3. 地獄谷新池付近。減少且矮小化。

ユノツルイヌワラビ（CR）*Athyrium*×*kidoanum Kurata*. 1980.7.6. 誓多林の杉林床内に自生。1 998.12.21.2 個体を確認。

ヒカゲワラビ（VU）*Diplazium chinense*（*Bak.*）*C.Chr*. 1975.7.24. 滝坂妙見宮奥。

オニヒカゲワラビ（EN）*Diplazium nipponicum Tagawa*. 1972.6.19. 周遊道路東から東部の道路脇各所。

ノコギリシダ（EN）*Diplazium wichurae*（*Mett.*）*Diels*. 1972.8.31. 柳生街道中程の岸壁を被っていた大群落は全部消滅。付近の川岸に残存。

ミヤマノコギリシダ（EN）*Diplazium mettenianum*（*Miq.*）*C.Chr*. 柳生街道で絶滅。2001.10.28. 誓多林～忍辱山間に小群落。

ホソバノコギリシダ（EN）*Diplazium fauriei*（*Christ*）*Tagawa*. 1990.3.24. 鶯の滝付近。奈良県ではごく稀。

ウラボシ科　*POLYPODIACEAE*

ビロウドシダ（CR）*Pyrrosia linearifolia*（*Hook.*）*Ching* 1973.8.12. 春日大社境内の樹木にも普通に着生していたが，近年激減。

まとめ

春日山で絶滅または絶滅危惧の状態にあるシダ植物は，既述の稀産種に留まらず，近畿地方では一般に普通種とされる種についても同様な現象が起きている。それらのうちで1995年以降，著しい減少が認められる種としては，キジノオシダ・オオキジノオ・コウヤコケシノブ・ホソバコケシノブ・ハイホラゴケ・コモチシダ・ジュウモンジシダ・イノデ•イノデモドキ・リョウメンシダ・オオカナワラビ・ハカタシダ・オニカナワラビ・ヒメイタチシダ・ミドリヒメワラビ・ヒメシダ・ヤマイヌワラビ・ヒロハイヌワラビ・ホソバイヌワラビ・シケチシダ・ヘラシダ・キヨタキシダ。ヒメノキシノブなどがあり，これらの中には絶滅の可能性が高い種もあるが，確証は得られていない。

19世紀末から20世紀前半にかけて，春日山に自生していたシダ植物の記録や標本を見るとき，

この山が現在とは比較にならぬほど豊な植生に恵まれていたことが分かる。将来この山の植物を研究する人たちが，20世紀後半も含めて同じ思いを持たないためにも，これ以上の荒廃を阻止することが，この山に関わるすべての人に課せられた命題である。

引用文献

岩槻邦男（編）．1992．日本の野生植物シダ．311 pp．平凡社，東京．

環境庁（編）．2000．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物・植物Ⅰ（維管束植物）．財団法人自然環境センター，東京．

倉田悟・中池敏之（編）．1979．日本のシダ植物図鑑1．628pp．東京大学出版会，東京．

――・――．1981．日本のシダ植物図鑑2．648 pp．東京大学出版会，東京．

――・――．1983．日本のシダ植物図鑑3．648 pp．東京大学出版会，東京．

――・――．1985．日本のシダ植物図鑑4．850 pp．東京大学出版会，東京．

――・――．1987．日本のシダ植物図鑑5．816 pp．東京大学出版会，東京．

――・――．1990．日本のシダ植物図鑑6．881 pp．東京大学出版会，東京．

――・――．1994．日本のシダ植物図鑑7．409 pp．東京大学出版会，東京．

――・――．1997．日本のシダ植物図鑑8．473 pp．東京大学出版会，東京．

松村任三・大久保三郎．1883．和紀勢三州植物採集報告．學藝志林．13：583－599

岡本勇治（久米道民・松村義敏増訂．松村義敏集．1997年覆刻）．1937．大和植物志．大和精版印刷，大阪．

レッドデーターブック近畿研究会．2001．改訂・近畿地方の保護上重要な植物・レッドデーターブック近畿2001．164pp．平岡科学研究所，大阪．

瀬戸剛．1963．近畿地方シダ植物目録Ⅱ．大阪市立自然科学博物館研究報告．16：15－51．

――．1964．近畿地方シダ植物目録Ⅰ．大阪市立自然科学博物館研究報告．17：33－36．

田川基二．1954．建部恵潤・内海功一，船越山の羊歯植物目録付記．しだとこけ，5：39．

辻本善次．1983．春日山産シダの近況1．奈良植物研究会会報，21：15－17．

――．1985．春日山産シダの近況2．奈良植物研究会会報，25：6－9．

――．1999．春日山のシダ植物・その現況について．奈良植物研究，22：10－16．